

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第6章 預言者における祈り⑨



ヨエル & アモス

ヨエル



ヨエルは、未来に聖霊が注がれることについて非常に印象的な預言を与えられた(ヨエル 2:28-29)預言者でしたが、どのように祈ればいいのかを知っていた人でもありました。また、未来の祝福の時について預言をしながらも、干ばつと困難の時に生きた人でもありました。彼は、どのように祈るべきかの模範を残してくれています。

主よ。私はあなたに呼び求めます。火が荒野の牧草地を焼き尽くし、炎が野のすべての木をなめ尽くしました。野の獣も、あなたにあえぎ求めています。水の流れがかれ、火が荒野の牧草地を焼き尽くしたからです。(ヨエル書 1:19-20)

自然が最小限必要の雨すら降らせないように思われるとき、あるいは、湿度が上がり過ぎるようなとき、破滅的な地震を起こすようなとき、竜巻や台風で町が破壊されて多くの命が失われるとき、私たちはどのように祈ればいいのでしょうか。中には、自然界の法則と出来事に祈りをもって介入するのは分を超えたことだと考える人もいるでしょう。しかし、ヨエルの例は、確かな指示を与えてくれています。自然の大災害やその原因が何であれ、私たちは、心の鼓動に従い、全能なる神に叫んでもかまわないということです。人間の諸事をお導きになる方は、墮落した被造物によって引き起こされる破壊をもとどめることのできる方なのです。神は、大惨事を退け、祝福を残してくださるかもしれません。もしくは、神の慰めと助けとが、救いを求める祈りに応答する形で与えられることでしょう。

ヨエルはまた、イスラエルの祭司たちに、どこでどのように祈るべきかの指示を与えてもいます。ちょうどイエスが弟子たちに、祈りの中でどのように神に近づくべきかをお教えになったのと同じです(マタイ 6:9-13)。「主

に仕える祭司たちは、神殿の玄関の間と祭壇との間で、泣いて言え。『主よ。あなたの民をあわれんでください。あなたのゆずりの地を、諸国の民のそしりとしたり、物笑いの種としたりしないでください。国々の民の間に、「彼らの神はどこにいるのか」と言わせておいてよいのでしょうか』(ヨエル 2:17)。

この祈りについては、ディーン・スタンレー(Dean Stanley)が生き生きとした描写をしてくれています。これを見ると、救いを求めての国を挙げた叫びの本質がわかります。

聖別された雄羊の角笛から響く鋭い音が、人々の群れに徹底的な断食を呼びかけた。免れる者は一人としてあってはならなかった。… 会衆の中には老若男女、母親もあれば乳飲み子もいた。婚礼の日にあった花婿と花嫁の姿もあった。全ての人々が祭壇の前に集まっていた。…祭司階級の者たちは、いつものように階段と講壇のところに集まるのに代えて地面に横たわって伏し、聖所の中にある「目に見えないご臨在なる方」を見つめていた。ダビデの時代以来、祈りに組み込まれてきた讚美の歌や音楽に代わり、そこに聞かれたのはただ、息を殺したすすり泣きであり、オリエントの特定の階層の人々のみが発することのできる不協和の大きなうなり声だけであった。…彼らは黒い織物を神殿に向けて振り、「主よ、汝の民を憐れみたまえ」と悲鳴に似た声を上げた。

あらゆる祈りが同様であってしかるべきですが、この祈りに見られる人々の真剣さは、神の栄誉となります。異教徒たちは嘲り、「おまえたちの神はどこにいるのだ」と叫びます。今日も、神を恐れない人々からは同様の叫び声が上がります。今こそ、イスラエルが祈ったように、教会も熱心かつひたむきに祈るべき時なのです。

アモス



旧約聖書の時代においても、神のお言葉を聞き、神に語りかけるのに、預言者や預言者の息子である必要はありませんでした。アモスは質素な羊飼いであり農夫でしたが、イスラエルに神からのメッセージを伝えるように任命されました(アモス 7:14-15 を参照)。

アモスが神に祈っているのが記録されているのは次の一箇所のみです。「私は言った。『神、主よ。どうか、おやめください。ヤコブはどうして生き残れましょう。彼は小さいのです』」(アモス 7:5)。この祈りには、祈る人すべてにとって、素晴らしい結果の一行が含まれています。すなわち、「彼は小さいのです」(アモス 7:2 も参照)のくだりです。イスラエルは神の助けを大いに必要としていました。彼らは、小さかったのです。しかし、貧しさの極みであることを認めることは、神のご介入を招く契機となりました。「心の貧しい者(筆者注：自分自身の

窮乏や貧困を認める人々)は幸いです。天の御国はその人たちのものだから」(マタイ 5:3)と、イエスも言われました。

罪のゆえに、イスラエルは士気を失い、戦いに敗れてしまっていました。神の裁きが下されていたのです。アモスの祈りは、彼の霊を表しています。彼は裁きを語らなければなりませんでしたが、砕かれた心のあふれるままにそれを語ったのでした。

? 質問

- 1 自然災害を経験し、あるいは大災害のニュースを聞いたとき、どう感じ、どのように考えますか？そんなとき、ヨエルはどう祈ることを教えていますか？あなたはどのように祈ることができますか？
- 2 ヨエルは、神を信じるゆえに人々の物笑いになっているときにどうすることを教えていますか？まわりの人々が「あなたの神はどこにいるのか、ほんとうにいるのか。」と言っているなら、どうしたらよいと思いますか？
- 3 ディーン・スタンレーの文書を読むと、現代でも教会をあげて祈ることが大切であると教えられます。あなたの教会がみんなで心を合わせて祈るべきことは何ですか？
- 4 アモスの祈りはどこが素晴らしいと思いますか？その祈りはどんなことにつながることになりましたか？
- 5 アモスの祈りを模範にすると、私たちは神の裁きを語るときに、どのような態度と姿勢で語る必要がありますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。災害で苦しみ痛んでいる人たちのためにどう祈ったらよいか教えて下さい。その祈りに答えて神が介入して下さるように。慰めと励ましがありますように。キリストを信じることにためらい、否定的になっている方がおられますが、そういう方々にあなたが生きておられる神であり、救い主であることを聖霊が教えて下さるように。